

■西岡北小学校の実践

(1) 研究内容

札幌大学ウレシパクラブのみなさんを学校に招いて行うアイヌ文化についての体験学習

(2) 学習活動を通して育てたい力

アイヌ文化について正しい知識を得て理解を深めるとともに、北海道の先住民族であるアイヌの社会や文化を尊重する態度を養う。

(3) 実践の内容

【札幌大学ウレシパクラブとの交流】

○ねらい

- ・アイヌ文化について学習することを通して、アイヌ民族の社会や文化を理解し、尊重する態度を養う。

○学習内容

<アイヌ文化の紹介>

ウレシパクラブのみなさんが、活動内容の紹介やアイヌの言葉などについてスクリーンを使って映像を見せながら4年生の子どもたちにも分かりやすく説明してくれた。JR札幌駅や地下歩行空間など、子どもたちにとって身近な場所でも活動していることを知り、興味・関心を高めていた。

また、ウレシパクラブのみなさんは、それぞれ文様の違うアツシに着替えて参加してくれた。この日までにアイヌの文化について学習し、ウレシパクラブとの交流を楽しみにしてきた子どもたちは、目を輝かせながら活動に入ることができた。



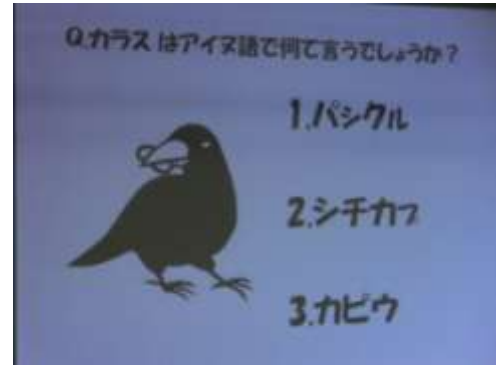
<カルタ遊び>

アイヌの人々の生活や言葉のカルタを用意していただき、八つのグループに分かれて活動した。昨年度までの実践をもとに、カルタが改良を加えられ、大変分かりやすく親しみやすい内容であった。また、事前にデータを送っていただき、子どもたちが目にして覚える時間があつた。予想以上に子どもたちは言葉を覚えていて、盛り上がりのある時間となった。



<アイヌ語三択クイズ>

アイヌの人々の暮らしについてや、地名や言葉など現在の生活に深い関わりのあることについてのクイズをした。三択形式であり、子どもも大人も興味をもてる内容であったため、アイヌ文化を楽しみながら学ぶことができた。ただし、出題された言葉がカルタに出ていたものがほとんどであったため、答えがすぐに分かってしまっていたようであった。



<アイヌの歌・踊り>

「ウポポ」という手遊び歌や「エムシリムセ」という剣を使った悪魔払いの舞を披露していただいた。写真等を見て知ってはいたが、間近で実際に目にすることができ、その迫力と楽しさを味わうことができた。

その後、「チャッピーヤク」という雨ツバメの踊りを教えてもらい、一緒になって声を出したり体を動かしたりしながら楽しく踊った。



(4) 成果と課題

① 成果

- ◇ウレシパクラブには、意欲あるアイヌの学生やアイヌの社会や文化に関心をもって活動している学生が多く、事前に本校を訪問していただいて担任と打ち合わせを行ったり、メール等での確認を行ったりするなど、大変熱心に準備をしていただいたため、スムーズに活動が進められた。
- ◇昨年度までの実践を生かし、見直しをかけていただいたので、子どもたちがより理解を深めることができるような内容となっていた。また、アイヌの文化を尊重する態度の育成に有効である。

② 課題

- ◆本校と札幌大学は校地が隣接しているという条件を生かして、様々な形で連携をとっている。この取組も年に一度だけの点での取組にならないように工夫していくべきであると考え、複数回の交流をもつように計画をした。今回は先方の都合もあって実現には至らなかったが、取組が線になるように努力し、より意義のあるものにしていきたい。
- ◆学生は、子どもたちを前にしての活動には慣れていないため、可能な範囲で活動内容の詳細についても打ち合わせを行い、教師のノウハウを生かすことができるようにすると、より効果的である。